「木の記憶が、子どもたちを未来へつなぐ」

１）施設名（用途）	児童発達支援事業所まなざし（児童福祉施設）
２）所在地	静岡県掛川市中宿１３５
３）事業実施主体	社会福祉法人まなざし
４）設計者	久保剛司建築研究室
５）施工者	(株)尾崎工務店
６）施工期間	令和７年７月　～　令和８年２月
７）施設概要	木造１階建て
８）規模（延床面積）	２１２．３６㎡
９）主な使用樹種	杉・桧（静岡県産材）
10）木材利用の特徴	本施設は、子どもたちが安心して過ごせる「包み込まれるような居場所」を目指し、静岡県産の杉や桧を中心とした無垢材をふんだんに使用した平屋の在来木造建築です。室内は桧の無垢フローリングや杉の板壁、構造美を見せる化粧梁を現しとし、木の芳醇な香りや心地よい手触り、柔らかな質感が子どもたちの五感に優しく働きかける療育環境を整えました。 建築的特徴としては、音や光の刺激に配慮して深く張り出した庇や障子を取り入れ、室内に優しく均質な自然光を呼び込むとともに、安全面と操作性に配慮した全引戸の動線計画を実現しています。 また、静岡県産材を 33.34 ㎥使用し、そのうち 22.19 ㎥に森林認証材を採用することで、地域の森林資源の循環利用と持続可能な林業へ貢献しています。子どもたちの成長を静かに支える温もりのある空間であると同時に、地域福祉施設における県産材活用の先行事例として、今後の木造化・木質化の普及を牽引する建築を目指しました。

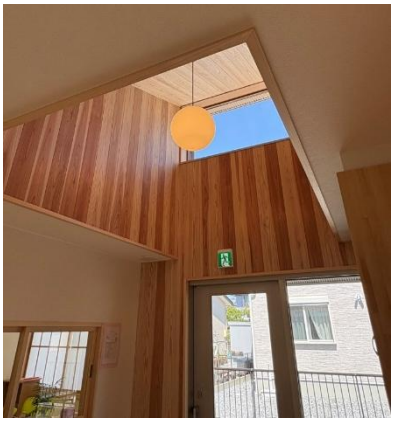
全面無垢板のホール



地域のランドマーク



光が差し込む開放的な玄関



杉板に囲まれた指導訓練室。襖を開けると一つの部屋になるのが特徴

